

幼児教育者は、たんに毎日の實際のことに追われるばかりでなく、いろいろの角度から幼児のことを考えることが必要であると思う。そうでないと一つの主義に偏ってしまったり、浅薄な常識にとどまってしまう。要するに、現代の知識を総動員して、幼児に最善のものを備えてゆくことが幼児教育にたずさわるものつとめである。広く知り、深く考えることによって現場はもっと進歩し、豊かなものになってゆくだろう。そしてそれぞれの幼稚園、保育園が、いままでのしきたりやゆきがかりをすてて、幼児のために何が必要かということをもっと考えるようになるならば、幼児教育はもっと発展するだろう。本誌はこれからも幼児教育に関するいろいろの問題をもっと深くつっこんで考えてゆくことをつとめたいと思う。

本号では幼児教育と心理療法をめぐって特集とした。もちろん、問題児を対象とする心理療法と、幼児教育とはその機能を異にする。幼稚園の教師と心理治療者とは別の制度の中で別の機能を果すものである。しかしながら、方法的な面、おとなと子どもとの接し方の面などでは、共通なものも多くみられる。ことに幼児の心理療法は遊びを通して行なわれる遊戯療法が多く用いられており、それは幼稚園の遊びと共通の問題を多くふくんでいるものである。そして、保育者が幼児の日常生活や遊びを適切にとり扱かってゆくことによって、問題行動を未然に防いでいる例はかなり多いだろうと思う。その意味でも、保育者はセラピストの子どもに対する態度と考え方をよく学んでゆく必要がある。

(T)

## 幼児の教育 第六十一巻 第七号

七月号 © 定価六〇円

昭和三十七年六月二十五日 印刷

昭和三十七年七月 一日 発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌ご購入についてのご注文は発売所 フレーベル館 にお願いたします。